

「忘れ物のぬくもり」

マタイによる福音書 6章31～34節

大学事務局学務部司書課リーダー 白水 三千代

31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。32 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。34 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。

細菌学者ルイ・パスツールの名言に「Chance favors The prepared mind(チャンスは準備された心のみ降り立つ)」というものがあります。チャンスをその手に掴めるかどうかは、普段からの準備や努力が大切だということです。

しかし、世の中には、準備や努力だけではどうすることもできないこともあると思います。だから、人は思い悩むのではないのでしょうか。

マタイによる福音書は新約聖書の最初にあり、イエス様の例えを用いた話も多く掲載されていて、子どもの頃から慣れ親しみ読んでいた福音書でした。私が選んだこの箇所は、第6章25節から34節までが一まとまりとなっており、新共同訳聖書では「思い悩むな」という小見出しがついています。

誰でも生きているうえで、多かれ少なかれ「悩み」をかかえていると思います。私はよく周囲の人に、悩んだところで自力ではどうしようもないことで悩んでいる、と言われます。最近の例を挙げます。先月5月21日に学内で「日経テレコンデータベース講習会」を開催しました。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)禍の折に、いつ対面授業がオンライン授業に変更になってしまうのではないかと、実務担当として内心は冷や冷やしていました。さらには、もしオンライン授業に変更になった場合は、講習会は中止するのか、PC等の機材を会場となる教室に運ぶにあたり当日の天気はどうなるだろうか、などと自力ではどうしようもないことを思い煩ってストレスを感じていました。他人から見ると、その程度の悩みと思われるかもしれませんが、当時の私にとっては、コップに汲んだ水があと一滴を加えたら溢れてしまう、それくらいに切羽詰まった気持ちでした。結果は予定通り対面形式で実施することができました。

生きている限り悩みは尽きないものです。そんな私たちに神様は「自分の命のことで何を食べようか何を飲もうか」と思い悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。」(マタイ6:25)と言われます。また、「その日の苦労は、その日だけで十分である」(マタイ6:34)とも。空の鳥は、種まきや刈り入れをしなくても、天の神様は養ってくださいます。野に咲く花は、働きも紡ぎもしなくても、天の神様は美しく花を装い育ててくださいます。私たちは常に、神様からのご配慮を受

けて生かされているのだと思います。

聖書を読むと、そこには、神様からのメッセージがあふれています。ストレスという名の重荷を負っていて疲れたと感じているときでも、みことばを読んで支えてもらえたり、心を休ませてもらえたりすることがあります。

私は、日常の中で目の前のことに気を取られてしまい、つい忘れることもあります。聖書のみことばにはぬくもりがあると思っています。疲れた時や思い悩んだ時には、聖書のみことばに耳を傾けてみませんか。自分の力ではどうにもできないことを神様にお委ねして天命を待つことも、思い悩む事柄を解決する方法の一つではないでしょうか。

お祈りいたします。

天の父なる神様、み名を崇めます。全学礼拝での奨励の時を与えられたこと、そのために聖書を読んで自身の心を見つめ直し、聖書のみことばを伝えるために考える機会を与えられましたことを感謝いたします。日常のいそがしさやストレスなどに苛まれていた心が、聖書のみことばを読んで癒されたと感じております。この礼拝の奨励を通して、少しでも神様のメッセージが、読んでくださった方に伝わるように心より願います。このお祈りを主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン

2021年6月24日 聖学院大学 全学礼拝